

京城日報

刊夕日五廿

帝政取消命令發表

徐世昌國務卿に任命さる
徐世昌國務卿に任命さる。同日徐世昌國務卿の署名せる總統命令を發表して帝政を取消したるが旨を宣せし。二十七日より政務に入るべし(北京特電)

南方各首領に打電

帝政取消後南方各首領の名義に南方各首領に打電し戰闘を中止し然る後前後策を講ずるに付同意を求むる意を致したり(北京特電)

對南方首領勸告内容

徐世昌國務卿は南方各首領の名義に南方各首領に打電し戰闘を中止し然る後前後策を講ずるに付同意を求むる意を致したり(北京特電)

革命軍資金差押らる

徐世昌國務卿は革命軍資金を差押らる。同日徐世昌國務卿の署名せる總統命令を發表して帝政を取消したるが旨を宣せし。二十七日より政務に入るべし(北京特電)

黎元洪氏出廬勸告

徐世昌國務卿は黎元洪氏に出廬を快諾し昨午(北京特電)

年號廢止國號復舊

二十三日附令にて段祺瑞參謀總長に任じ馮國璋氏を江蘇將軍に復し又同令にて大總統職停止の結果として洪憲の年號を廢し中華國號に復する旨の宣布ありたり(北京特電)

羅馬尼聯合側に傾く

露部に於て羅馬尼の近隣諸國に傾ける態度を見て羅馬尼の形勢は概して聯合國側に有利なり(紐育電報)

露獨全戰線露軍有利

露獨全戰線露軍有利。露軍は三線の鐵條網を破りて聖堡二堡を奪取し捕虜一千名及び機關砲十二門を得たり(北京特電)

米國増兵案下院通過

米國下院は正規兵を十四萬に増加する政府案を通過せり(紐育電報)

伏見宮午餐會

伏見宮午餐會。各府縣實業家等招待。伏見宮は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。伏見宮は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

司令官官歴訪

司令官官歴訪。司令官は各府縣實業家等招待。司令官は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

寺内總督臨場

寺内總督臨場。寺内總督は各府縣實業家等招待。寺内總督は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

總督邸晚餐會

總督邸晚餐會。總督は各府縣實業家等招待。總督は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

政務總監歸期

政務總監歸期。政務總監は各府縣實業家等招待。政務總監は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

日滿會議變更

日滿會議變更。日滿會議は各府縣實業家等招待。日滿會議は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

三線減價會議

三線減價會議。三線減價會議は各府縣實業家等招待。三線減價會議は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

井田主計監歸任

井田主計監歸任。井田主計監は各府縣實業家等招待。井田主計監は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

相田飛行將校入京

相田飛行將校入京。相田飛行將校は各府縣實業家等招待。相田飛行將校は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

關金電線故障

關金電線故障。關金電線は各府縣實業家等招待。關金電線は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

鶴岡江解水

鶴岡江解水。鶴岡江は各府縣實業家等招待。鶴岡江は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

山元

山元。山元は各府縣實業家等招待。山元は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

沙里院

沙里院。沙里院は各府縣實業家等招待。沙里院は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

浦項より

浦項より。浦項は各府縣實業家等招待。浦項は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

忠州

忠州。忠州は各府縣實業家等招待。忠州は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

安邊

安邊。安邊は各府縣實業家等招待。安邊は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

江口

江口。江口は各府縣實業家等招待。江口は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

仁王山

仁王山。仁王山は各府縣實業家等招待。仁王山は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

山元

山元。山元は各府縣實業家等招待。山元は二十四日正午より伏見宮邸に於て午餐會を開き、各府縣實業家等招待。

飛行機に追拂はれる飛行船

□飛行將校中の先輩

爾實に到着するまで途中は總て

口夷賊計は列氏の器下



復の飛行機が一番多

機が無くてはなら

旅
ら
か
と
墜
ち
落
さ
れ
た
墜
ち
落

あるが此の空申戦の壯快

直ぐに大砲で撃ち墜されて

挂物研

珠に喪具の新らしい中は潮が若い。

は、荷役が取り付けられた大けそ
 であるから、致し難い。これと

越たいところから今では思
常に多いやうである。私はま

して申込むなれば

令長官村上中將之語

日韓協約の結ばれた時故伊藤

必要が起つて来たのであつて、保存上
超した事はないが、暗からん事を欲す

後者には死んで満足に形が整ふものが無

二百餘曲を横領東京

三
日

獨逸人と米國人 丹羽清次

目に小宮次官の手を経て献上の

て自邸でお茶の饗應を惜ぶした
の日夫人と美しい令嬢とは自ら

とて自邸に於て同盟のお茶を催

は来る廿八日午後正二時半かゝ

主は各銀行會社の依頼に依り就職
月二圓廿錢の規則書郵券二錢封

北京人才

新聞學會出版部

業會講所

本門

一人か二人か
前夜その當日(受驗物語) 冊冊

下小山町

$$= \frac{2\pi}{\sqrt{2}} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2} + \frac{1}{2} + \frac{1}{2} \right)$$

100

100

[illegible]



春の天王寺 大坂にて山下釣書

世界の強味

伊集院大使と
車中へ語る

伊集院大使は、二十日、大坂から神戸へ向かう車中、記者と語り、世界の強味について、日本の立場を述べた。伊集院大使は、日本の強味は、経済力にあると述べ、日本の経済力は、世界の強味の一つである。伊集院大使は、日本の強味は、経済力にあると述べ、日本の経済力は、世界の強味の一つである。

流行の履物

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。お花見の季節に、流行の履物。

商況

東京株式特電

債券現物特電

公債現物特電

深川在米特電

東京在米特電

大阪株式特電

大阪在米特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

大阪米穀特電

洋傘金高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

白米高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

依然高調

矢尾太華筆

京城論壇の新設
 本報は今同京城論壇より一新設し、論議を内
 外識者の執筆に係る論議意見を掲載し、来る四月
 二日より始めて、毎日曜日の朝刊第一面を飾るこ
 ととせり
 京城論壇に掲載せらるべきものは、政治、經濟、
 軍事、學術、文藝、教育、宗教、趣味、家庭、其
 他凡百の國家社會の問題に亘り、苟く世道人心
 を裨益すべき文字悉く可ならざるなく、本欄の開
 設は必ずや智識階級の擴大に與かりて多大の力あ
 るべきを信ず。

同京城通商口岸新設

[illegible]

は洪原郡の郡衙の在る

2

に敗れ、卒を喪ふ萬餘、裨將數人を失ふ。勢甚だ痛感す、乞ふ戰を罷め



高價買入所

水箱 少に拘るも買受申候
七丁目 炭灰及石炭商
左官材料 鉦小賣商
建築材料 鉦小賣商

戸澤清三郎

京城旭町四丁目
電話九八四番

大美代

富士商會

大井町五〇六番

眞卷
大美代
富士商會

日本一ノモト 新子供ニハアリマズ此刊ノ具イラズビ色ガ澤天下一品ノ專賣特許品ナリ

興中館

錢一稅郵錢二十册壹價定
銀二十七金共稅郵金前冊六
訂保神長三四東京東

外勤社員募集
我社ノ保險、小口ニシテ存金少
額且戰爭少キ故募集ノ容易ナ
ラズ今年度より同一ノ比ニア
改正セリ者有キ故照会者京成
大平町景城代理店橋本信一郎
送附アレ論議ノ土商會日通知ス
福岡市天神町三番地

日本徴兵保險會社

し且つ經濟なり尙普通の毛筆より尙尙優美にして一度墨汁を入れば端書三百枚迄は書き得れば携帶用として亦事務用として頗る便利也旅行家外勤家には最も欠く可らざる必要品なれば是非一度御試用あれ

△種先は替穂があります
△又携帶に便するためスクリツプもあります

壹個 金八錢
壹個 金五錢

朝鮮總督府鐵道局
入札拂下
一日本綿貳百六反外八點
右賣却之詳細、本月二十五日以後、
朝鮮總督府官報に見るべし
大正五年三月廿五日
京畿道

朝鮮總督府

鐵道局

電信修技生募集

當局電信修技生十五名(朝鮮人十名、日本人五名)を募集す。事項は六月十五日以前、官報又は當局電報員教育所の公告(承合)をシテ、正五年三月二十日

開募大

原素白講義

學部青少年速時入學し實業成功の眞髓を授け、**立身出世**を來ひ

特價六拾圓錢三割引期間六月十五日迄開後必是定價復す

タイヨ一萬年毛筆 (定價八十錢)

九八號

就速成四ヶ月卒業學費

完全無缺類例なき大講義錄さへは世人の認定し、推賞するところを以て如何に本校に於けるべきかを知られ

大特典

現見

校學

商業登記公告

東京十友合資會社、大正五年三月式
拾日在立止時期、爲該設立の日ヨリ滿
八拾週年ト變更シケル。

右大正五年參月貳拾貳日在記
帳行興行、大正五年參月貳拾貳日、
京市同區南區町會所、拾六番地ノ
支店ヲ同市同區服部町壹番地ニ移轉
シケル。

貴會社、卜植商店、大正五年參月

廣 告

仁川現物界
四月月報
五月月報
六月月報
七月月報
八月月報
九月月報
十月月報
十一月月報
十二月月報

全(鐵火)原因及び損益額は前掲表にて目下取調中。

